

5. 医労連・岩本代議員

社会保障闘争について発言する。医労連は8月28日に組織数を増やして大会を迎え、歴史の歯車を動かすのは私達だとする認識を新たにした。民主党政権になって期待感があった。後期高齢者医療制度廃止や医療費削減や国庫負担の回復、国が責任を持つ国保運営などでことごとく裏切られた。しかし、社会保障の運動も弱くなっていた。川谷書記長を送っているが、産別として支えていなかったことを反省している。9月30日には中央で総会が開かれるが最低限の運動として3点が提起されている。①後期高齢者医療制度廃止の運動、②国保の改善、③社会保障についての学習や全加盟組織内に社会保障闘争委員会の設置、秋のキャラバンに全力を挙げて取り組む。医労連は医師、看護師、介護労働者の不足から増員への運動を強化して、国際ルール署名やILO看護条約の批准、医療・介護の負担軽減に向けて奮闘する。